

第二次世界大戦期 「八戸地方えんぶり」 調査・研究報告書



八戸えんぶり

八戸工業大学第二高等学校 2学年

赤坂智哉 大嶋莉央 砂場心遥 泉山鈴音 盛田琴羽

石橋怜 川崎建 西川怜花 白坂香芙美

01「八戸地方えんぶり」と「八戸三社大祭」

大正7年（1918年）の取り決めに
より各えんぶりが八戸三社大祭の
際、長者山へ供奉人(行列のお供)
を3人提供することになった。

02 近代地方新聞に見る戦時下の 「八戸地方えんぶり」



●事変中でもあるの
で武運長久に伏せ
て豊年を祈願して
行はれる

「奥南新報」 昭和13年
(1938) 2月1日

↑ 日中戦争のきっかけとなった盧溝橋事件

るぶんり

時局を反映し
参加組が減少

八戸豊年祭

初春の八戸九時出発、鍛冶町、大工
戸市を賑町、十六日町、二十六日町

先類家
中様家

今日も賑はふ

國威宣揚祈願
武運長久祈願

稻荷大神

渡御式

豊年祭

貳月拾七日(舊正月拾日)

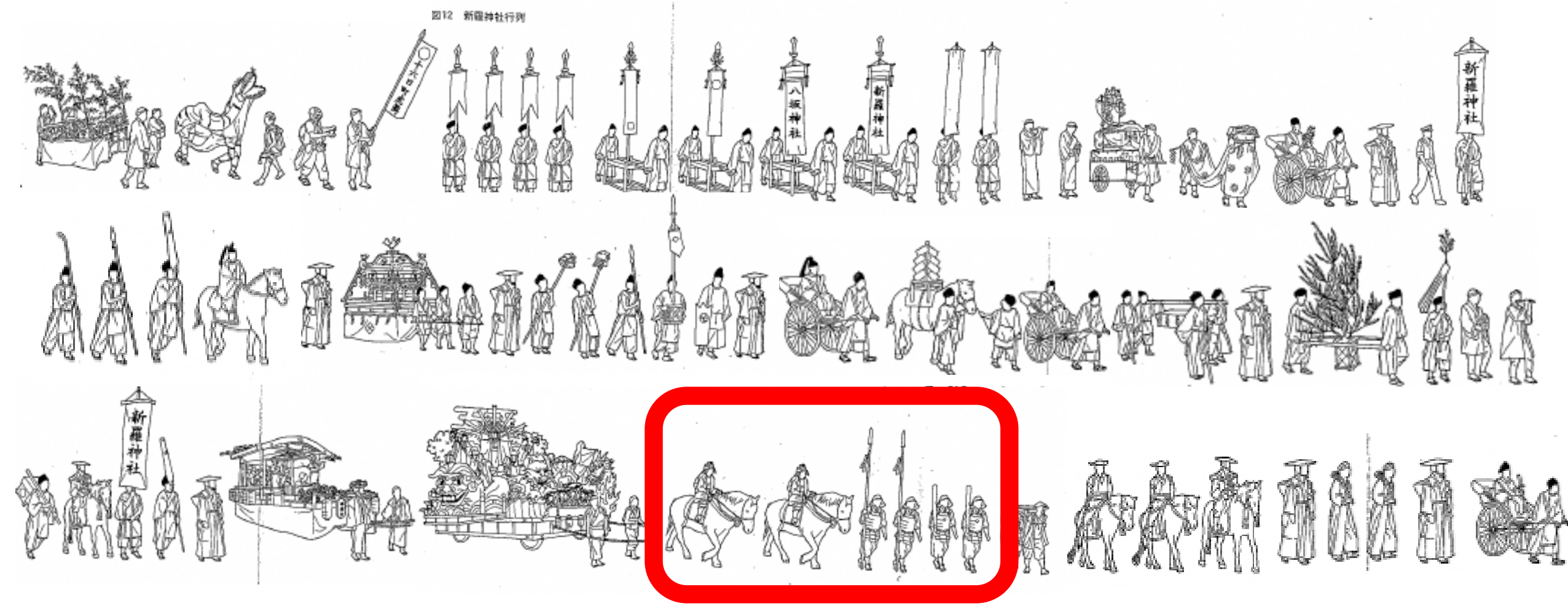
ヨリ四日間

長者山

新羅神社々務所

03 「新羅神社文書」に見る 戦時下の「八戸地方えんぶり」

図12 新羅神社行列





拝啓本年度、大祭の机
の人夫、申し訳無い次
第ですけれども、応召
のため人夫不足です。
察しますて誠に申し訳
なく、参列し兼ね仕候。
御許可の程を、お願い
仕候。

拜啓 本年度、大祭の机の人夫
申訳無い次より申し候。
應召のため人夫不足です。
大祭に察しますて、誠に申訳
無く参列し兼ね候。
どうか御許可の程を、お願い
仕候。

04 戦況の悪化と「八戸地方えんぶり」の危機

戦時下の「豊年祭」参加えんぶり組一覧

年代	区市町村	えんぶり組名	参加組数
昭和13 (1938)	八戸市	新井田仲町、梨ノ木平、上永福寺、新井田横町、駒越、妻ノ神、上組町、下懸引、西十日市、上七崎、東十日市、大久保、柏崎新町、八幡町、小中野丸元、八幡、八太郎、野場、重地、中居林、上懸引、常番町、須家、糠塚、白銀、売市、十一日町、上田面木、新組、塩町、市野沢、小中野丸新、下永福寺、妙、是川天狗沢	42
	階上町	平内、金山沢、鳥屋部、田代	
	南部町	下斗賀、名久井島舌内沢田、小橋	
昭和14 (1939)	八戸市	中居林、下懸引、新井田横町、八幡町、常番町、上懸引、八太郎、新井田仲町、是川妻ノ神、柏崎新町、大久保、豊崎永福寺、上組町、重地、是川天狗沢、売市、十一日町、下長苗代愚虫、小中野町左比代、根城、小中野新町、糠塚、塩町、沼館、梨木平、白銀	31
	階上町	金山沢、田代、平内、鳥谷部	
	南部町	名久井島舌内沢田	
昭和15 (1940)	八戸市	是川妻ノ神、東十日市、十一日町、柏崎新町、上組町、常番町、糠塚、松館、新井田横町、須家、白銀、根城、上田面木、新井田仲町、重地、八幡町、小中野丸新、八太郎、大久保、中居林、売市、妙、新井田山道	27
	階上町	平内、金山沢	
	南部町	名久井村沢田、小橋	

【奥南新報】昭和13年2月19日・同14年2月22日・同15年2月19日の記事より。

05 戦後、復興する「八戸地方えんぶり」

終戦となった
今日再び復興
され町々に朗
かな仄々とし
た雰囲気を撒
き散らしてゐ
る。



← 今年度のえんぶりポスター

「八戸地方えんぶり」を調査・研究をしてみても

- ①戦争中、豊作を祈る民族芸能のえんぶりが、国威宣揚という戦争の手段に使われていた。
- ②「候」(そうろう)などの昔に使われていた文字の一部を読み、資料を解析した。
- ③えんぶりの歴史を図書館へ行って資料を見て学び、自分たちで訳し、まとめた。



ご清聴ありがとうございました



第二次世界大戦期 「八戸地方えんぶり」 調査・研究報告書



八戸えんぶり

八戸工業大学第二高等学校 2学年

赤坂智哉 大嶋莉央 砂場心遥 泉山鈴音 盛田琴羽

石橋怜 川崎建 西川怜花 白坂香芙美